

資料より一部抜粋

平成30年度 かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会  
2019年2月1日 厚生労働省講堂

# 平成30年度 多職種連携による 在宅における 薬学的管理推進モデル事業

岩手県・岩手県薬剤師会

面積：15,275.01km<sup>2</sup>

(平成29年10月1日現在)



岩手県は本州の北東部に位置し、  
東西約122キロメートル、  
南北約189キロメートルと  
南北に長い楕円の形をしています。  
その広さは北海道に次ぐ面積であり、  
日本面積の4%を占めています。

面積：13,565.49km<sup>2</sup>

(埼玉、千葉、東京、神奈川の面積をあわせたものより広い！)

2

他職種との連携ツールとして  
ケアマネカード（名刺サイズ）を作成しました！

ケアマネジャー情報カード

■ 事業所名		
■ 介護支援 専門員名		
■ 電 話 F A X	電話	FAX
■ メ モ		

岩手県薬剤師会

ケアマネ情報を記載し、  
おくすり手帳に、貼付・封入

おくすり手帳に、  
ケアマネ情報を記載するページを作りました！

ケアマネジャー等 連絡先

事業所名

---

介護支援  
専門員名

---

電話

FAX

---

メモ

---

---

---

---

---

7

12

## 介護支援専門員との連携ツールの活用推進！

### 薬剤師に 相談して下さい!!

利用者さん  
のために

**こんなこと  
ありませんか？**

- 一人暮らしで薬の管理が出来ない
- 飲み忘れしてしまう
- 何に効くかわからない
- 飲みづらい、飲んでくれない、服薬の介助に難儀がかる
- 錠剤を潰して飲んだり大丈夫？
- たくさん種類を飲んで大丈夫？飲み合わせは？

**薬剤師はこんなことができます！**

- 薬の正しい飲み方指導
- 薬の副作用や多くの健康食品との「飲み合わせ」の確認
- 「飲みにくい」薬を他の薬への変更検討

**他にも...**

- ご担当の介護支援専門員への薬の使用法や留意点など情報提供の業務
- サービス担当者会議への意見提供、必要時の会議への参加
- 主治医への連絡、報告など
- 医師と連携して薬を調整して調剤
- 病院内や他の薬局で調剤された薬を一包化するなど（外来薬支援）
- 居宅療養管理指導による定期訪問支援（薬の一包に、管理についての指導、医薬品確認など）

※ 医療・介護保険制度を利用して、薬剤師の訪問サービスが受けられます。（介護保険の利用費助成には含まれません）

**アセスメントシートをご利用ください！**

① アセスメントシートの概要  
② 情報を基に臨床支援専門員と支援士にて相談  
③ 支援の開始

④ 薬剤師  
⑤ 利用者  
⑥ 介護支援専門員

⑦ 利用者の抽出  
⑧ アセスメントシートに記載の情報が薬局へ  
⑨ アセスメントシートを送付

薬局 行

事業所名 \_\_\_\_\_ 調剤介護支援専門員

TEL ( \_\_\_\_\_ ) - ( \_\_\_\_\_ ) - \_\_\_\_\_ FAX ( \_\_\_\_\_ ) - ( \_\_\_\_\_ ) - \_\_\_\_\_

利用者氏名 \_\_\_\_\_ 生年月日 ( 年・大・期 ) \_\_\_\_\_ 種 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( 歳 )

要介護度 要支援 1・2 要介護 1・2・3・4・5

姓 名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 支店名 \_\_\_\_\_

生活状況 同居・日中独居・独居・施設入所・その他( \_\_\_\_\_ )

【お薬の管理と服用について】 ※該当する項目に○印

1 薬を服用していますか？ はい・いいえ・不明

2 お薬手帳を持っていますか？ はい・いいえ・不明

3 複数の医療機関から薬をもらっていますか？ はい・いいえ・不明

4 薬の管理は誰が行っていますか？ 本人・家族・ヘルパー・看護士・その他( \_\_\_\_\_ )

5 薬の管理方法はどのようになっていますか？ カレンダー・薬箱・その他( \_\_\_\_\_ )

6 薬を指示通りの方法で服用できていますか？ はい・いいえ・不明

※ 6で「いいえ」と回答された方へ  
① 飲めない原因は何かあると思いますか？ ※該当する項目に○印

**服薬に問題のある  
利用者について  
アセスメントシート  
に記入いただき、  
調剤している薬局に連絡！**

ねたきり...  
くるま...  
在宅医療を受けている家族のことで  
相談したいんだけど...



# 平成30年度 多職種連携による 在宅における 薬学的管理推進モデル事業

平成30年度  
多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

**【事業の概要】**

県内の2地域（以下「モデル地域」という。）において、**市町村の地域包括支援センター等と連携し**、薬学的管理に問題があると思われる在宅患者に対して、**薬剤師が保健師及び介護支援専門員等と同行訪問を行い、在宅患者への薬学的管理・服薬指導を実施**する。なお、モデル地域の選定にあっては、医療密度の高い都市部としてアンケート調査を実施した岩手県立中央病院の所在する盛岡地域と、医療密度の低い地方として沿岸部の一地域を想定している。

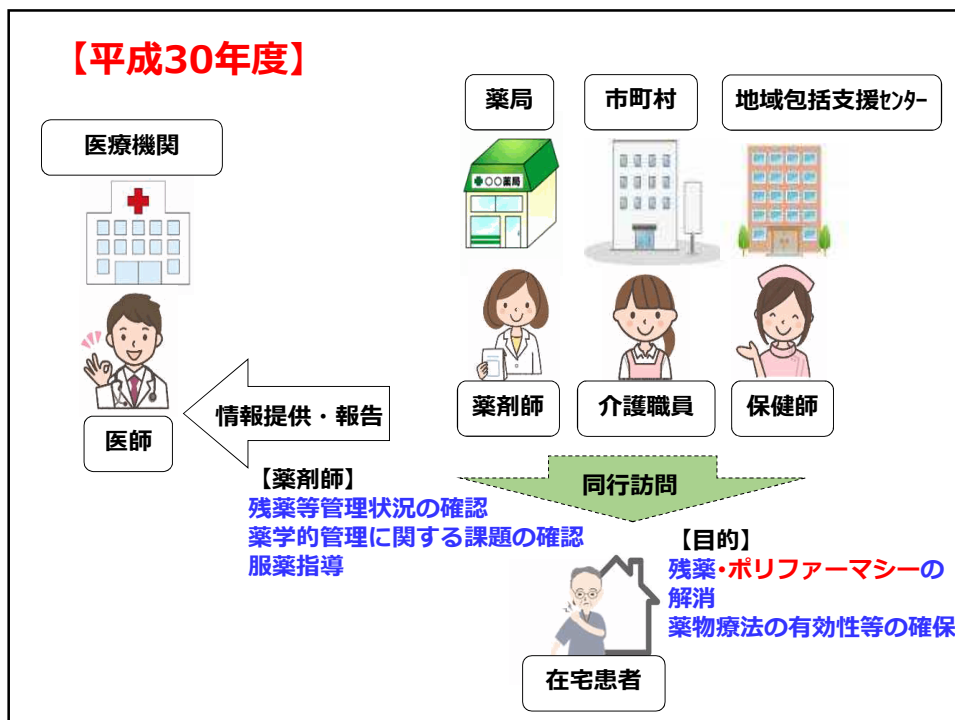
また、**在宅患者における薬学的管理に関する課題（コンプライアンス、アドヒアランス、重複受診、ポリファーマシー等）を抽出し、当該課題の解決方策を検討する。**

15

平成30年度



16



平成30年度 多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業

## 【事業の概要】

- (1) 事業検討会議の開催
- (2) 事業説明会及び研修会の開催
- (3) 「患者のための薬局ビジョン」に係る  
研修会の開催
- (4) 住民説明会の実施
- (5) 同行訪問の実施
- (6) 事業報告会の開催
- (7) シンポジウムの開催
- (8) 事業実施に係る普及啓発

18

## 保健師及び介護支援専門員等と同行訪問

### 【同行訪問の実施】～抽出から訪問までの流れ～

- ①地域包括支援センター及び介護支援専門員が該当者を抽出。
- ②事業該当者（患者）の情報を地域薬剤師会担当者へ連絡。
- ③地域薬剤師会担当者、かかりつけ薬局へ連絡し、同行訪問を依頼。
- ④かかりつけ薬局の薬剤師は、事業該当者のご都合を踏まえ、同行者（地域包括支援センター職員もしくは介護支援専門員）と日程調整を行い、同行訪問。

19

## 保健師及び介護支援専門員等と同行訪問

### ○盛岡

- 事例 1：男性・75歳、要介護 1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 2：女性・73歳、要介護 2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 3：女性・83歳、未申請（同行者：介護支援専門員・保健師）
- 事例 4：男性・61歳、要介護 2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 5：女性・76歳、要介護 2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 6：女性・75歳、要介護 1（同行者：介護支援専門員）

### ○釜石

- 事例 1：女性・90歳、要支援 2（同行者：介護支援専門員）
- 事例 2：男性・90歳、要介護 3（同行者：介護支援専門員）
- 事例 3：男性・81歳、要支援 1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 4：男性・97歳、要介護 1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 5：女性・82歳、要支援 1（同行者：介護支援専門員）
- 事例 6：女性・78歳、要介護 2（同行者：保健師）

20

### 【訪問した患者】 同行訪問アンケート

(6) あなたが薬剤師に求めることは、どんなことでしょうか

- ・ 薬についての質問や健康面の相談。  
話を聞いてもらえると安心できる。
- ・ 薬のことで、わからないことについて  
教えて欲しい。
- ・ 減薬に協力してほしい。

### 【同行した他職種】 同行訪問アンケート

(5) あなたが薬剤師に求めることはどんなことでしょうか

- ・ 個々に生活背景が異なるように、高齢者も生活に対する支障がそれぞれ違いがある。利用者の情報は、ケアマネからだけでなく、薬剤師自身でも観察することも大切だと思った。  
その上で情報共有できればと感じた。
- ・ 利用者宅を訪問して、普段の管理の状況を確認し、薬剤師の視点で利用者や家族、支援者にアドバイスいただけたら、より身近で相談しやすいと思った。
- ・ 薬の量が多くて飲むのが大変と話す利用者の方が多い。医師は必要なので薬を処方していると思うが、利用者側の気持ちとしては減らしたいと感じている。そのような場合に薬剤師が関わることで医師との連携で薬の調整ができると良いと思う。
- ・ 医師との連携、服薬困難な方へのサポート。

## 【訪問した薬剤師】同行訪問アンケート

### (6) 今後、薬剤師が訪問してくすりの管理を行っていくためには何か必要だと思いますか？

- ・多職種との情報共有 ⇒ ただし、情報の質が重要！
- ・多職種との連携 ⇒ 日頃から、合同研修会を企画・参加することで、他職種を業務を知るとともに顔の見える関係を作っておく。
- ・最適な薬物治療の提案 ⇒ 最新の情報を収集・習得。
- ・固定観念にとらわれない柔軟な考え、行動を起こすための勇気。
- ・訪問する必要性を薬剤師自身が認識すること、訪問に対するハードルを薬剤師自身がコントロールする（ハードルを下げる）こと。
- ・（訪問に充てる）時間及びマンパワー
- ・薬剤師会や薬局からのPR。
- ・他職種⇔薬局⇔医療機関の連携を円滑・簡便に行えるようにするツール。

平成28年度 多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業  
釜石地区第4回事業検討会 報告書抜粋

## 釜石・大槌地区の 多職種連携に向けた今後の課題及び提案

### ○お薬手帳にケアマネ情報を載せる。

薬剤師は患者の生活の様子や服薬状況（残薬など）を知ることが困難である。大槌町では書式を作ってお薬手帳にケアマネ情報を載せ始めたところである。釜石広域介護支援専門員連絡協議会の総意を得て、釜石・大槌地区の三次連携で紹介してもらうこととした。

### ○アセスメントシートの紹介（在宅訪問可能薬局リストも併せて）

薬に関することで困っている患者さんがいたら、積極的にアセスメントシート（電話でも良い）を使ってもらうこととした。

## ○病院薬剤師と薬局薬剤師の連携

病院薬剤師と薬局薬剤師は別の職種ととらえて、チームかまいしの連携手法に載せることとした（具体的には、チームかまいし病院薬剤師の1次連携）。

24